

東日本大震災被災地応援

—4.30—

2011. 4. 30 (土)

10:00~12:30

平安女学院中学校高等学校

エディーホール

主催 東日本大震災被災地応援実行委員会

東日本大震災は想像をかるかに超えた大惨事になりました。被害の状況が明らかになるたびに、「何かしたい」という気持ちが大きくなってきました。そして、私たちは「思い」を「行動」にするため、震災から1ヶ月後の4月11日に、東日本大震災被災地応援実行委員会を立ち上げました。

—「発信源は私から」—

今日この日、私たちは第一歩を歩み出します。

被災者の方々が立ち向かう「苦難」を思うと胸が押しつぶされそうです。被災者の方々が、一日も早く、未来への「希望」を抱くことが出来る日が訪れることを心から願っています。

1. 開会 挨拶 実行委員長 西紋あかり
2. オープニング 大津市少林寺拳法公認
アトラクションチーム
3. 世界からの応援 キベラの子どもたち
4. 講演 湖北地域消防本部
清水 宏行氏
5. ゴース&リボン演技 本校体操部
6. 独唱 ソプラノ歌手 上野洋子氏
伴奏 鷹真佑子氏
7. 二胡演奏 奏者 川野真広氏
8. 休憩 <支援物資・提供物資買い取り協力呼びかけ>
9. 演奏 本校吹奏楽
10. 合唱 京都朝鮮歌舞団
朝鮮中高級学校・本校コーラス部&軽音楽部
本校保護者コーラス部 「アグネス・リート」
11. 全員合唱 「上を向いて歩こう」「ふるさと」
12. 演奏&お祈り&閉会ご挨拶 ハンドベル部&実行委員会

世界中の人々が、様々な形で応援してくれています。私たち実行委員は第1回目の会議で、ケニアのスラム街にある「キベラ孤児院」の子どもたちの「被災地への祈り」の映像を観ました。キベラ孤児院は日本人の支援によって作られました。こども達は辛い経験をして孤児院に来ました。こども達の歌声は辛い経験を乗り越えた大きな力があります。涙を流す姿に心打たれた私たちはキベラのこども達に力をもらい活動を進める決意をしました。

独唱者：ウィーン国立音楽大学をへて、ウィーン国立オペラ座の専属合唱団員をつとめ、オペラのレパートリーは豊富。各種リサイタル公演出演。
伴奏者：パリ・エコールノルマン音楽院をへてフランスのピアノコンクールで第1位受賞。

2007年「第8回中国音楽コンクール」金賞、2010年「第3回中国音楽国際コンクール」特等賞
二胡とは、中国の伝統的な民族楽器のひとつ。馬の毛でできた弓で弦をこすって音を出す擦弦楽器。東洋のバイオリンと呼ばれています。

お祈りのことば

1000年に1度訪れるかどうか分からないと言われる大災害に見まわれ、被災者はもちろん、みんなが力を落としています。「明けない夜はない」と知りながらも、明日への光がを見つけにくい日々です。いつの日か、被災地が蘇る日を信じて、その日まで私たちが、この災害で苦しんでいる人々のことを忘れることなく、被災者への思いやりと、支援のはたらきが息長く行うことができますように、私たちに力を与えて下さい。また、被災された方々に、もうこれ以上の試練を決して与えないで下さい。かけがえのない命が失われ、生きる望を失いかけている方の心と体をお守り下さい。職を失い生活のめどがたたずに困っている方へ救いの手が公平に差し伸べられるようにして下さい。この願いをどうかお聞き入れ下さい。最後に今日ここに集い、被災地への思いを共有できたことに感謝いたします。